

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名	グループホーム すみれの園
(ユニット名)	抹茶
記入者(管理者)	
氏名	渡部 大介
自己評価作成日	平成29年8月1日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかに安心してあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 課題：運営推進会議や行事に対して、家族の参加が少ない。 目標：家族が気軽に参加できるような環境づくりを工夫する。 取り組み内容 ①入居者本人の誕生会に参加してもらう。②家族の意向に合わせて日程を調節する。 ③来所時に案内したり、案内状を郵送する。④家族の情報を聴き、興味のある内容の講演等を開催する。 取り組み結果 毎月の個別のお手紙や運営推進会議の案内状を送ったり、来所時に案内をしている。新規の入居者の家族は、初回に参加していただけても、2回目以降になると参加されない家族が多い。参加家族に意見を伺うもなかなか遠慮されている様子である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は整理整頓と清掃が行き届いたとても快適な空間で、利用者も穏やかに過ごしている。体操やレクリエーション、食事などの際には皆が居室からリビングに集まり、楽しく談笑している。その他の時間はそれぞれのリズムで、居室やリビングで思い思いに過ごしている様子が印象的である。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	見学時、面談時、入所時に本人・家族に聞き取るようにしている。	○	/	◎	日々の支援の中で、散歩中など利用者とゆっくりと話ができる時に、思いを聞き取るよう心がけている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	声かけをして表情等から汲み取るようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	職員で気付いたことを家族と共有し本人の思いについて話している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	会話の内容や感情等も記録するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員一人の考えでなくほかの職員の感じ方も共有している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	見学時・面談時・入所時・入所後にも生活歴や習慣を聞き取るようにしている。	/	/	◎	アセスメント表は、普段は追加情報を赤字で追記し、介護保険の更新申請時に入力して作成する形で整理している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々のケアの中から有する力を職員間で話し合い共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その都度、感情の変化や言語を申し送り把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	要因が何かを話し合い関わりなどの見直しをしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	把握はしているが、職員や他の入居者に合わせていただくこともある。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	職員間では出来ているが、情報を家族に伝え切れてないこともある。	/	/	◎	ショートミーティングでは、月に1回、利用者ごとの計画や支援内容について見直しを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアプラン作成時に本人の有する能力を考慮しながら支援計画を立てる。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容が、本人にとって必要かを評価している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族に要望を伺いケアプラン人取り入れている。	/	/	/	日々の支援の中で把握した利用者の思いや、家族の希望、職員全員の意見などを反映させ、計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケアプラン作成時に本人、家族の意向を聞き意見やアイデアを反映している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通の困難な方には、家族に意見、意向を伺い対応している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	運営推進会議を通して地域の方と交流を図れている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録や連絡ノートを通して職員同士把握、理解している。	/	/	◎	利用者一人ひとりの日々の様子は、小さな変化でも見逃さないようにしており、気づいた時にその都度記録し職員全員が確認し共有している。アセスメントシート等計画作成担当者が作成するものはパソコンで入力・保存しており、職員がいつでも確認できるようになっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアの実践を介護記録に残し職員同士で情報共有し反映させている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの中の小さな変化も見逃さないようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	小さな気づきでも記録に残し共有できている。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月ごとの見直しや、大きな変化があったとき、入退院の際に見直している。	/	/	◎	モニタリングは担当職員が毎月行い、3か月毎の計画の見直しの際は家族に連絡を取り、相談しながら作成している。状態の変化があるなしにかかわらず、月1回のユニット会議で利用者の状態については確認している。それぞれの利用者の計画や支援内容を、一覧にして記載した表を作成しており、ユニット毎に管理している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のユニット会議にて確認を行えるようにしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化があった際には、職員で話し合い家族に新しい計画について話し合い作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎日のショートミーティングにて話し合いをしている。	/	/	◎	申し送りの際にショートミーティングを行っており、月に1回、ユニット毎の会議があり、全利用者について確認している。会議に参加していない職員も議事録により会議の内容を確認しており、職員全員が利用者の情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	気付いたことはその場で話し合いより具体的には、毎日のミーティングやユニット会議で話し合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出勤者が多い日に設定し夜勤者に関しては、体調を優先して参加を促している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りや、会議録を確認できるように当日には作成し全員が周知できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送り及び記録を見もらうことで全員周知が来ている。	/	/	◎	日報に申し送り内容等記入しているため、出勤したらまず日報と申し送りノートに目を通すことになっている。申し送りノートには、外出の予定や家族からの連絡事項等が記載されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りにて情報を伝達し、より重要な内容は、連絡ノートのほかにも口頭でも伝え、連絡ノートを確認した場合には押印することで周知の確認をしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	散歩、買い物、庭の手入れなど出来る限り実施している。	/	/	/	利用者のペースや習慣を尊重し、テレビを見る時間や就寝時間など、細かなルールは設定していないが、今のところ特にトラブルもない。利用者には自分で欲しいものを選んでもらうなどの機会を提供している。職員は利用者を元気づけるよう会話を増やしたり、レクリエーションで楽しんでもらうよう工夫するなど、事業所を明るい雰囲気にするよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	ゲームの商品など自分で好きなものを選んでもらっている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その都度時間をかけて職員が対応できていると思う	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	声かけはするが、本人のペースで決めるよう支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日常の会話やレクリエーション等で明るい雰囲気を作っている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や言葉や反応など確認しながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	馴れ合いになり言葉使いや態度に配慮が欠けることがある	○	○	◎	浴室がリビングと近いこともあり、必ず扉を閉めるよう気を付けるなど、利用者のプライバシーを大切にしている。耳の不自由な利用者等への言葉遣いなど気になることもあるので、今後は配慮したケアに取り組んで欲しい。居室に入る際は、不在時も含め利用者の許可を得てから入室するよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	心がけているが耳が聞こえにくい方に配慮が足りていないと思うときもある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	個々の希望や有する能力に合わせて声かけや支援をするようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室不在時には、本人に用件を伝えてから入室するようにしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ホーム内の情報は持ち出さないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の出来る範囲で手伝ってもらい感謝を伝え役割をもつことでの生活意欲の向上を図っている。	/	/	/	不安定で落ち着かない利用者の隣には、自然と、入居年数が長く、精神的にも安定している利用者が座り、話し相手になっていることが多い。利用者同士、助けたり助けられたりしながら、うまく関係性が保たれている様子である。食卓の席などを定期的に変えるなど、利用者同士のいい関係性が保てるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活をしていることへの理解もあり他の入居者に何かあったときには、気にかけている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者間の関係を普段の生活から把握し負担がかからないようにリビングの席を定期的に替えるなどの工夫をしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった際には原因について話し合いトラブルにならないような環境づくりをしている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	見学、面談、入居時に本人、家族へ情報収集を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	見学、面談、入居時に本人、家族へ情報収集を行っている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	今までの交友関係等を断ち切らないように家族と連携を図っている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には、居室へ案内しプライバシーに配慮して対応している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩、買い物、ドライブ、庭の手入れなど希望を聞いて対応している。	○	○	◎	公園や買い物に出掛けたり、毎月、ドライブなどの外出を計画したりしている。利用者の状態に関係なく、遠距離の外出にこだわらず、近距離の外出や散歩等も含めた外出を計画目標に挙げ、個別に対応するなど支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	運営推進会議を通して近所の方との協力体制を整えている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	遠距離は、困難であっても近距離や散歩などに行くことができる。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	動物園やショッピングセンターなど利用者の希望通りに実施できている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	積極的に外部や内部の研修に参加し認知症ケアを学ぶことができている。	/	/	/	朝夕、職員と一緒に皆で体操をしているほか、廊下が長く手すりもあるため、何往復かして歩行訓練をしている。基本理念である利用者の自立を念頭に、少し難しそうなことにも取り組んでもらえるよう支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活動作を基本に毎日繰り返し移動、食事、排泄行動を自分の力でできるよう見守り、支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	自立支援を基本理念に職員も務めており自立支援及び少し複雑なことも提案し実施できるよう進めている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人、家族から情報を得て今までの生活歴、習慣を把握している	/	/	/	地域の祭りや運動会へ参加している利用者もいる。利用者に洗濯物干しや、車椅子のタイヤの空気入れをお願いするなど、できる作業の役割を積極的に担ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれのADLに合わせて出来ること、楽しいことを見つけ対応している。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の行事に参加するが、役割や出番などは、ない	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	着替えを準備するときには、本人と一緒に考えながら出すようにしている	/	/	/	状態にかかわらず利用者は皆、季節に合った清潔な装いであり、希望があれば訪問理容等をお願いすることもある。家族の付き添いにより行きつけの美容室へずっと通い続けているなど、利用者の意向に沿った支援を継続している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	髪型や服の好みは、本人や家族の希望を聞いている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節感のある衣類の提案をしたり散発の際には、悩まれている様子があれば提案などするようにしている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の好みを重視しつつ季節に合った服選びを支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	さりげなくすることを忘れがちになっていることがある	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人、家族の意向、家族の協力など希望に添えるように対応している	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人や家族の希望に沿って訪問利用を活用したり朝晩の更衣の支援をしている。	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	考えることや、決めること、楽しむこと、生きるために必要なことと理解している。	/	/	/	職員が献立を考え、ネットスーパー等で注文し配達してもらっている。調理を利用者と一緒に行うことは減っているが、ホットケーキを焼くなどのおやつ作りは、皆で一緒に行っている。湯呑みやコップ、箸など、利用者ごとに個別の使いやすい物を使用している。アレルギー等は入居時に聞いており、旬の野菜や果物を取り入れた献立メニューにしている。利用者の興味を引くよう献立メニューの説明をしながら調理をしている。利用者の食事介助を優先しており、利用者と一緒に食事をしていないが、ずっと見守っているため、利用者は安心して食事をしている。栄養バランスには気をつけているが、栄養士等専門家のアドバイスを受けるなど、利用者の栄養摂取に万全を期して欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	後片付けや食べたいものの提案は入居者に手伝ってもらっているが、他はスタッフが作業している。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	日用品の買い物や食器の片付けは積極的に実行してくれている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては面談時に必ず聞くようにしている。日々の食事の様子などから好き嫌いを把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の野菜や果物、行事に応じた献立を盛り込むようにしている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	彩りや主菜、副菜、汁物など気をつけているが、ミキサー食に関しては、彩の配慮ができていない	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時にそれぞれ持ち込んでもらうようにしている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事介助や食事の際見守りや食器の入れ替えなどの支援が必要な方が多く入居者が食べることが優先となっている為、一緒に食卓を囲むことは出来ていない。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	献立の内容を声かけにて伝えながら介助している	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事形態は、個人によって変えており水分の摂取量は、表に記入することでひと目で把握できるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	日々の食事量、水分量を注視しており少ない場合は、補食などでカロリーや水分を補えるようにしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士の指導は受けていないが栄養に偏りがないように気をつけ見た目にも配慮している。	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	ハイターなどを使い殺菌消毒を行い冷の物は、食べる直前に冷蔵庫から出すようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し入居者の能力に応じて口腔ケアを実施している。	/	/	/	毎食後、自分でできる利用者はブラッシングしている。職員の声かけで、義歯も自分で外して洗浄している利用者もいる。日常的に職員が口腔状態を確認しケアに取り組むなど、口腔内の清潔を保てるようにしているが、必要時には訪問歯科をお願いするなど万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアを行う方に関しては、担当するスタッフが注意してみるようにしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科協会からPOPをもらい実行している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後と寝る前に毎日行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自立の方は、本人任せにしているときもあるが、介助の必要な方には、毎回お手入れし口腔内の清潔を保っている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不具合があれば協力医療機関である歯科に連絡し適切な対応を行ってもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	失敗しないようにさりげなく声かけを行っている。	/	/	/	布パンツの利用者も多いが、職員の声かけや誘導等の努力により、利用者全員がトイレで排泄している。夜間帯のみパッドを大きめのものにする等調整したり、入居前からの習慣で、排泄チェック表を自分でつけている利用者などもあるが、利用者の意向に沿いそれぞれの状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解した上で排泄パターン便秘日数に気を配っている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録などを使い排便パターンや通常の形状などを周知している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	時間でのトイレ誘導や座位がまったくとれない状況の方にはオムツを使用するが、スケジュールを立てておむつ交換を行っている。また、過剰な紙製品の使用にならないように配慮している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	バランスのよい食事や水分補給、適度な運動を心がけている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録で失禁がトイレでの排泄かのパターンを知り、動き方などから尿意を察知できれば周知している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状態に応じて対応している。また、排泄状況に応じて使用物品なども話し合っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	適してないと感じた場合にすぐに毎日のミーティングで取り上げて対応を暫定的に変更している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	お茶寒天などを作り排便しやすい取り組みをしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	介護度で分けているが、一人ひとりの入浴にかけられる時間を長くしてリラックスできる時間を増やしている。	◎	/	◎	週に2~3回ずつ入浴することができる。昼食後の入浴を希望する利用者が多く、順番を決め意向に沿った支援をしている。浴室にはリフトも設置されているが、利用者全員が職員の一部介助で入浴できている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	スタッフと会話したり、入浴剤を使うなどしてリラックスできる場所を作っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	必要などころに支援が入るようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫やスタッフの性別、時間などを変えて本人が入浴したいと思える状況を作っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタル測定は必ず行っている。体調や気分などにも配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や申し送りで睡眠時間を確認している。	/	/	/	もともと睡眠時間が短い利用者や、就寝時間が遅い利用者もいるが、睡眠導入剤などに頼らずそれぞれのリズムで生活できるよう支援している。場合によっては医師に相談をすることもあがるが、昼間に活動するなどの工夫により、利用者は安定した睡眠を保っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間の過ごし方を考え1日のリズムをつかんでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	規則正しい生活のもと合計の睡眠時間などを把握し心身に悪影響があると判断すれば主治医に相談するが、昼間の過ごし方で落ち着いていただいている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その人に合った休憩時間帯で居室で休んでいただいている。無理強いはない。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば電話、手紙のやり取りの支援をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	手紙や電話を促すことはない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族の依頼、了承があれば電話している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返事を書いたり、連絡を取るよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人が希望している場合をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	お金の管理、支払い等は、職員以外はしていない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一緒に買い物に行っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先に協力依頼はしていないが、気を使って配慮して下さるため、御礼を伝えている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	家族の希望も多くほとんどお金を所持していることはなく支援をおこなっていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人の意思に応じて小額を所持していただくこともある。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法を説明月に1度出納の確認もしていただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出・通院など家族の協力が困難な場合は支援している。	◎	/	○	入院中にリハビリの一環として覚えた手芸を、引き続きしたいと希望されたものの、アイロンを使う作業があったため、それ以外の作業を普段行い、家族が面会に来た際にアイロンを使うように工夫して支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	特別な配慮は行っていないが清掃はしている。	◎	◎	◎	事業所は、とてもきれいに掃除・整頓されており、周辺の住宅の景色に溶け込み一般の住宅のようである。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者と一緒に季節の飾り付けをしたりリビングで孤立することのないよう席の工夫をしている。	◎	○	◎	全体的にきちんと整頓され、清潔で清々しい空間である。地域の避難場所の手作りマップや、イベントとして定期的開催される演奏会の写真、職場体験で訪れた小学生との写真などを掲示している。玄関には行事予定を掲示しており、習字が得意な利用者が「お知らせ」の文字をマジックで書く役割を担っている。玄関には花を飾るなど季節感があり、いい雰囲気である。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	個々に合わせて電気を調整したりカーテンをしたりしている。また清掃は毎日全部屋、共有部分行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	玄関に花を飾ったり季節の飾りをしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	居室、リビングは自由に行き来していただいている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	との開け閉めの際共有空間から見るとときもある。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	長年愛用した家財など持込み可能であることを伝え持ち込んでいただいている。	○	/	◎	自宅から家具を持って来たり、家族の写真を貼ったりするなどしている。アルバムを持参されている方もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者さんが出来ることを共有し過剰なかいじよをしないようにしている。	/	/	/	居室入口は、名前と写真を表札のように掛けている方や、名前を貼らず自作のリースを飾っているなど、利用者の希望に合わせて対応している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	声かけにて対応し不安や混乱がないよう注意している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室に趣味などの道具は置きいつでも手に取れるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけなければならない場合にはスタッフ同士で話し合って実行している。	◎	◎	○	職員全員、鍵をかけることの弊害を理解し基本的に日中は施錠していない。利用者の様子に応じ、ユニットの入り口や玄関に施錠することもあるが、ドア開閉時には音が鳴るよう工夫している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵をかけ始めた際に家族に説明し理解を得ている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	扉を開けると音が鳴るようにしている。外に出たいなどの意向があれば状況に応じて出られるように段取りをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	新規入居の際や受診の際には、個人ファイルの情報や受診ノートを確認するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	普段と違う状態の際記録に記入し必要に応じて看護職員へ連絡している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	適宜相談できるようにしており医師の指示のもと治療や入院対応を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	見学时、面談時等に家族に希望の医療機関などの確認を行い入居後も継続して医療が受けられるようにしている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、かかりつけ医、事業所で連絡を取り合い適切な医療を受けられるよう配慮している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	そのときに応じて話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際必要と思われる情報は提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に情報交換を行い退院できることを重視しながら話し合っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	お互いの情報交換は、常に行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	介護職と看護職が連携が図れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	有事の際には常勤の看護職員と連絡を取り、その指示にて各主治医へ連絡をとるようにしている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル及び状態変化を看護師に報告している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の説明書は薬と同じ場所で管理し常に確認できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	必ず2名で確認し誤薬がないようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	特に内服状況が変わった際には、その状態を記録するようにし医師へ報告、相談ができるようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	特に認知症状は、状態の変化を確認し話し合い状況に応じた対応ができるようにしている				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に重度化の指針を説明し、以後は、状況によって説明している	/	/	/	これまでに事業所で看取りの経験もあり、24時間体制で訪問診療をお願いできる医療機関が複数あり、体制は整っている。医療行為のない場合は事業所で最期まで支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	定期的に終末期の意向アンケートを行いその都度家族に見直していただき協力医療機関、主治医へ連絡している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	状態の変化があった際に急変時対応の話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	面会時に家族の今の思いを聴きその際に対応について話している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	三者で話し合いの場を設け検討や準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に傾聴するようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場内研修にも取り上げファイルにまとめていつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	手順を記したファイルを保管し見れるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	運営推進会議で市職員の方や包括の保健師さんが時期よっての注意喚起を改めてしてくださっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関からの情報やインターネットなどで情報収集し対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒や張り紙を設置し感染予防の注意喚起を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を築けている。				毎月家族へは報告の便りと行事の案内を郵送している。計画の説明や金銭的な面での相談事などがある場合には、事前に連絡して、事業所に来てもらうようお願いしている。家族の面会時には、職員から普段の様子や暮らしぶりを細かく伝えるように心がけている。今後は職員異動や事業所設備等運営上のことなどについて、家族への報告を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に居心地よく過ごしていただけるように居室に椅子をお持ちしたり取り組みの様子などを伝えたりしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	月1回の手紙にて行事予定の報告をしている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回の手紙にて生活の様子などを伝えるようにしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	来訪された際になるべく家族から意見を聞くようにし取り入れられるように取り組んでいる				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来訪時になるべく説明をするようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	手紙や電話にて報告し協力を得られるようにしている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事予定や運営推進会議の案内にて参加を促し交流が図れるようにと取り組んでいるが、参加されることが少ない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時及び面会時に説明をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	面会時に聞くようにしている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事前に契約の時間を設けていただき説明し締結している。内容の変更についても変更する前に説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の意向に沿って退去支援を行っている。転居先を探して欲しいなどの依頼があった際には、連絡調整い入居できる可能性の高い施設を複数提案した。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に必ず説明し、初回請求の暫定金額も細かく明示している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で認知症の勉強会などを開いて理解していただいている。	/	◎	/	地域の民生委員がとても協力的で、近隣の方との交流も多い。地域の避難訓練や運動会、町内清掃等へも参加して交流を深めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内会の行事には入居者さんと共に参加し日常的な挨拶もこころがけている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の消防士の方を中心に防災に関して協力支援に力を入れてもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近隣の方に野菜をもらったり犬の散歩の途中に立ち寄りしてくれている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩など外で顔を合わせたときには声を掛け合っている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣の方にボランティアを紹介してもらったり夏祭りに来ていただいたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	散歩コースに近くの田畑が眺められるよう場所を選んだのしんでもらっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	運営推進会議に参加していただいたり町内清掃にてで関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族には事前に連絡しているが、ほとんど参加されない。地域の方や行政機関の方は毎回参加いただいている	○	/	△	リビングのスペースで運営推進会議を開催している。家族の参加もあるが、なかなか継続的な参加にはつながっていないため、今後の取組みに期待したい。地域の民生委員は毎回参加しており、その他の地域の方も積極的に参加している。職員は皆交代で参加し、進行役等も順番に担当している。外部評価等について、参加者に報告し理解を得ている。参加者からは様々な意見を出してもらっており、状況に応じて話し合うようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況は常に報告している。事前に計画していることも報告している	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	集まっていたいただいた方からコメントや連絡事項を頂状況によって話し合いをしている	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	事前に集まりやすい日を決めて予定を立てている	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	報告提出の他に運営推進会議開いて前回の議事録を配布している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	近隣付き合いは推進会議や地域行事を通して意識して取り組んでいる。	/	/	/	事業所や法人内での研修、外部の研修など、積極的に受講するよう勧めている。代表は管理者や職員のストレス軽減になるよう、有給休暇等には理解があり、急な勤務変更等にも応じている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	事業所内に掲示しているが取り上げて伝えることは行っていない	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	資格や経験年数、日々の業務姿勢などから内部研修予定を作成、また外部研修の参加を具体的な項目を挙げて参加を促している。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入社3ヶ月で夜勤が一人でできるように育成している。資格取得への助言を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	実績などを鑑みて研修に参加を促しキャリアアップを促し、資格取得による昇給などモチベーションを上げられるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修に参加することでの横のつながりや他事業所でのことを聞くことで刺激を受けてもらうことを考えている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	急な勤務変更なども気軽に対応することで、自分の時間も大切にしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に1度は内部研修を行い理解を深めている。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	常に話し合うことができている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	声かけながら一人のスタッフに対応が偏らないようにフォローするようしており、入浴時に入居者の全身チェックを行い注意している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	普段と違う様子が見えるようであれば勤務を変更するなどの提案を行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修を行い理解を深めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修を行い理解を深めている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	原則行わないことを見学時にも伝え家族より申出があった場合にも再度説明を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内部研修や更に詳しい内容は、外部研修に参加できるように情報開示している	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	見学時などに家族構成などを伺った流れで松山市社会福祉協議会が作成しているパンフレットを渡して相談場所などを伝えている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	常に連絡を取り合い地域包括や専門機関の方に運営推進会議にも参加していただき意見交換を行っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	看護師から指示を受けて急変時の対応を行っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護職員に様々な対応方法を聞くようにしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットが発生した費のミーティングで話し合い要因分析、再発防止に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ひとりひとりのADLなど日頃から話し合い事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルをいつでも見れるようにしている。また、内部研修等でも学んでいる	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が発生した場合にはマニュアルに沿って対応するようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ間で連携など協力しながら、サービスの向上に努める	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	普段の生活から話を聞くようにしている	/	/	△	意見箱を設置しているが、意見や要望等の把握にまでは至っていないので、今後は利用者や家族からの意見が出やすいようにするなどの工夫が望まれる。職員からは日常的に意見が出されており、会議でも活発にアイデアが出されている。月1回ユニット会議を開催し、利用者個々の支援に限らず事業所の運営についても積極的な意見が職員から出されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を置き家族の要望等を聴けるようにしている	○	/	△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	説明するようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ユニットにてコミュニケーションが図れるように業務補佐や食事を一緒にしたりしている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月に1度ユニットでの会議を開き個々の支援についてだけでなく運営についても意見も出している	/	/	◎	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回自己評価と上司による評価を行っている。	/	/	/	自己評価はそれぞれのユニットで作成し、実施状況の評価欄についてもユニット毎の判断を行った。運営推進会議を通じ、参加者にも評価結果は報告しているがそれに止まっているため、具体的な取り組みを行い運営に活かすなどして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題の抽出を行い毎日のショートミーティングなどで話し合っている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	運営推進会議などでご指摘いただいたことを改善できるようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を通じて外部への報告を行っている	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	記録をとることでの成果を確認している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルをいつでも見れるようにしている。	/	/	/	年に2回避難訓練を行い、そのうち1回は消防立ち合いで実施している。防災士でもある民生委員のアイデアで、運営推進会議の中で地域の防災マップを作成した。また、緊急時には近隣の住民が応援に駆けつけてくれる計画もあり、訓練にも参加している。水害に備え、1階のユニットの利用者を2階フロアへ移動してもらう訓練なども実施している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災・地震・水害など分けて訓練している	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	日常的に行えないところは、3ヶ月に1度確認を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	事前に連絡行い近隣の方に参加いただいている。	△	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	近くの福祉センターでの共同訓練には参加させていただいた。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議にて報告連絡を行っている。	/	/	/	地域の方から相談が入ることもあるが、件数が少ないため、事業所のことを宣伝するなど、さらに広報に努めて欲しい。また、地域の小学校から職場体験学習の依頼があり、今年から受け入れを始めているが少し物足りなさを感じるので、一層の取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議や立ち寄ってくださった際に相談対応している	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	まもる君の家シールを玄関に貼り地域教職を行っている。夏祭り開催時には近隣の方にお伝えする	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	職場体験などに活用して下さっている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議にて報告連絡を行っている。情報のやり取りをしている	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月5日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870103490
事業所名	グループホーム すみれの園
(ユニット名)	梅干
記入者(管理者)	
氏名	渡部 大介
自己評価作成日	平成29年8月1日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかに安心してあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 課題：運営推進会議や行事に対して、家族の参加が少ない。 目標：家族が気軽に参加できるような環境づくりを工夫する。 取り組み内容 ①入居者本人の誕生会に参加してもらう。②家族の意向に合わせて日程を調節する。 ③来所時に案内したり、案内状を郵送する。④家族の情報を聴き、興味のある内容の講演等を開催する。 取り組み結果 毎月の個別のお手紙や運営推進会議の案内状を送ったり、来所時に案内をしている。新規の入居者の家族は、初回に参加していただけても、2回目以降になると参加されない家族が多い。参加家族に意見を伺うもなかなか遠慮されている様子である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は整理整頓と清掃が行き届いたとても快適な空間で、利用者も穏やかに過ごしている。体操やレクリエーション、食事などの際には皆が居室からリビングに集まり、楽しく談笑している。その他の時間はそれぞれのリズムで、居室やリビングで思い思いに過ごしている様子が印象的である。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	家族や本人の意向を伺い、希望に沿えるように努めている	○		◎	日々の支援の中で、散歩中など利用者とゆっくりと話ができる時に、思いを聞き取るよう心がけている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人が判断できない場合は本人の視点で検討している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	来所時に家族や親戚の方と話し合っている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の言葉も記録している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	状態によっては職員の判断の場合もあるが、本人の言動を見て思いに沿うようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人・家族に生活歴や習慣を聞いている			◎	アセスメント表は、普段は追加情報を赤字で追記し、介護保険の更新申請時に入力して作成する形で整理している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の動作などで把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	入所され生活をしていく中で少しずつ把握に努めている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者の態度や言動から要因の把握に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ずつのリズムに合った過ごし方をさせていただき、その都度変化や違いの把握に努めている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点に立って検討している			◎	ショートミーティングでは、月に1回、利用者ごとの計画や支援内容について見直しを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日のミーティングでスタッフ間で検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を抽出し共有し改善に向けて話しあっている				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	意向に沿った内容になっている	/	/	/	日々の支援の中で把握した利用者の思いや、家族の希望、職員全員の意見などを反映させ、計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、担当者など必要によっては主治医にも相談し話し合いながら反映させている	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	ADLに変化が起きても、その状況に合わせた内容となっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	運営推進会議など参加いただいた際に協力依頼など行いできている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	スタッフが話し合って計画を立てている	/	/	◎	利用者一人ひとりの日々の様子は、小さな変化でも見逃さないようにしており、気づいた時にその都度記録し職員全員が確認し共有している。アセスメントシート等計画作成担当者が作成するものはパソコンで入力・保存しており、職員がいつでも確認できるようになっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日実行できるように一覧表に記入し実施、評価を記録し月末に見直している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	その日の様子は個々の記録に残している	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	毎日のミーティングの中で気になる利用者を取り上げ対応を検討し記録している	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入退院などなければ最長3ヶ月に1度見直しを行っている	/	/	◎	モニタリングは担当職員が毎月行い、3か月毎の計画の見直しの際は家族に連絡を取り、相談しながら作成している。状態の変化があるなしにかかわらず、月1回のユニット会議で利用者の状態については確認している。それぞれの利用者の計画や支援内容を、一覧にして記載した表を作成しており、ユニット毎に管理している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回の会議でスタッフ間で確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	体調や状況に応じて相談見直し計画を立て直している	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に会議を行っている。毎日出勤者でミーティングを行い申し送りをしている	/	/	◎	申し送りの際にショートミーティングを行っており、月に1回、ユニット毎の会議があり、全利用者について確認している。会議に参加していない職員も議事録により会議の内容を確認しており、職員全員が利用者の情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由に意見が出し合える会議となっている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来る限りスタッフ全員で参加できるようにしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議内容は細かく記録し後日確認できるようにしている	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	1日3回口頭で申し送りを行い。重要なものは専用のノートに記入し捺印するようにしている	/	/	◎	日報に申し送り内容等記入しているため、出勤したらまず日報と申し送りノートに目を通すことになっている。申し送りノートには、外出の予定や家族からの連絡事項等が記載されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り、情報伝達は行っている。家族への報告、連絡もその都度記入しスタッフ間で共有している	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望に沿えるようにしている	/	/	/	利用者のペースや習慣を尊重し、テレビを見る時間や就寝時間など、細かなルールは設定していないが、今のところ特にトラブルもない。利用者には自分で欲しいものを選んでもらうなどの機会を提供している。職員は利用者を元気づけるよう会話を増やしたり、レクリエーションで楽しんでもらうよう工夫するなど、事業所を明るい雰囲気にするよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	更衣時の洋服、離床のタイミングなど本人に問いかけている	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日常の会話の中でご本人の思いや考えなどを問いかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人のペース、気分や体調をそれぞれの行為前に確認している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	天候や興味のあることを話したり利用者のいいところなどを見つけて話している	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を観察し本人の思いを汲むようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	外部の研修へ参加し行動に移すようにしている。	○	○	◎	浴室がリビングと近いこともあり、必ず扉を閉めるよう気を付けるなど、利用者のプライバシーを大切にしている。耳の不自由な利用者等への言葉遣いなど気になることもあるので、今後は配慮したケアに取り組んで欲しい。居室に入る際は、不在時も含め利用者の許可を得てから入室するよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	耳の遠い方も居るので排泄誘導時に大きな声になることがある。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声かけをこまめに行い本人のペースで行っている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室不在時に洗濯物を片付ける際は本人に声かけして了解を得てから入室するようにしている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し遵守に努めている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者とのコミュニケーションも良好に取れておりお互い感謝し合っている。	/	/	/	不安定で落ち着かない利用者の隣には、自然と、入居年数が長く、精神的にも安定している利用者が座り、話し相手になっていることが多い。利用者同士、助けたり助けられたりしながら、うまく関係性が保たれている様子である。食卓の席などを定期的に変えるなど、利用者同士のいい関係性が保てるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解している。利用者には何かあった時は利用者間で心配してくれるコミュニティができている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	口論になることもあるが利用者の性格や関係性を考慮し対応している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが合った場合にはスタッフが話を聞いたり仲裁に入るようにし落ち着いてもらっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	見学時や面談時などに本人、家族に聞くようにしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	見学時や面談時などに本人、家族に聞くようにしている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族と一緒に外出していくことはあるが、ユニットで対応したことはない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	家族とのコミュニケーションもとれており気持ちよく来所していただいていると思う	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	外気浴や外出は、定期的に行っているが、時間帯。行き先等は本人の希望に添えていないこともある。	○	○	◎	公園や買い物に出掛けたり、毎月、ドライブなどの外出を計画したりしている。利用者の状態に関係なく、遠距離の外出にこだわらず、近距離の外出や散歩等も含めた外出を計画目標に挙げ、個別に対応するなど支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出時はスタッフか家族が付き添ってくれているため外部の活用は行っていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の方も状態に応じて距離を考え外出を行っている	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	地域の方に協力を得ての外出は行っていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	外部、内部研修により認知症について理解を深めている。BPSDが見られる場合にはそ都度対応を行っている。	/	/	/	朝夕、職員と一緒に皆で体操をしているほか、廊下が長く手すりもあるため、何往復かして歩行訓練をしている。基本理念である利用者の自立を念頭に、少し難しそうなことにも取り組んでもらえるよう支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	身体機能を理解し、その人にあった支援を行っている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人の能力を活かしご自分で出来るようにしているが、時々声をかけ促している	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の役割を割り当ててその人に合った出来ることを見つけて実施していただいている。	/	/	/	地域の祭りや運動会へ参加している利用者もいる。利用者に洗濯物干しや、車椅子のタイヤの空気入れをお願いするなど、できる作業の役割を積極的に担ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	状態が進行しても喜びや楽しみを感じられるようその人に合ったケアプランを立てている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	見学することはあっても参加したり役割を持つことはない	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の気に入った衣類を選んでもらっている	/	/	/	状態にかかわらず利用者は皆、季節に合った清潔な装いであり、希望があれば訪問理容等をお願いすることもある。家族の付き添いにより行きつけの美容室へずっと通い続けているなど、利用者の意向に沿った支援を継続している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	美容師には自分で好みの髪型を伝えカットしてもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	出来る範囲でご本人の希望を確認しアドバイスするようにしている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は本人と相談し季節に合ったものを着れるように選択してもらっている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	さりげなくできてないが、汚染時や乱れがある時は交換している	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	訪問してくれるところを選ばれる方が多く訪問理容を使っている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	整髪や身だしなみは整えるが、衣類については着脱しやすい衣類を準備していただいている	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	考えることや、決めること、楽しむこと、生きるために必要なことと理解している。	/	/	/	職員が献立を考え、ネットスーパー等で注文し配達してもらっている。調理を利用者と一緒に行うことは減っているが、ホットケーキを焼くなどのおやつ作りは、皆で一緒に行っている。湯呑みやコップ、箸など、利用者ごとに個別の使いやすい物を使用している。アレルギー等は入居時に聞いており、旬の野菜や果物を取り入れた献立メニューにしている。利用者の興味を引くよう献立メニューの説明をしながら調理をしている。利用者の食事介助を優先しており、利用者と一緒に食事をしていないが、ずっと見守っているため、利用者は安心して食事をしている。栄養バランスには気をつけているが、栄養士等専門家のアドバイスを受けるなど、利用者の栄養摂取に万全を期して欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	利用者のADLの低下に伴い手伝いをしていただける状態でない	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	利用者のADLの低下に伴い手伝いをしていただける状態でない	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者の嗜好を把握しておりアレルギーのある方には、別メニューでの対応を行っている	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の野菜や果物を取り入れ季節感を出している。また行事などの際に季節のお茶菓子などを提供している	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりその日の体調に合わせた調理をしている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅で使い慣れた食器を利用していただいている。力が弱くなってきた方には軽めの食器の提案をしている	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事のサポートはさりげなく行っているが、スタッフが一緒に食事ができる状態でない。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	利用者から見える場所で調理をしており音やにおいを感じていただいている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりに合った量をバランスよく提供している。水分摂取は1日1500mlを目標にほぼ実施できている	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事の量やタイミングは利用者の状態に合わせている。食事でとれない場合はおやつやコーヒーなどで補っている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	職員同士で話し合っているが栄養士のアドバイスは受けていない	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒予防に努め発生させていない	/	/	/			

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後には必ず口腔ケアを行うようにしている	/	/	/	毎食後、自分でできる利用者はブラッシングしている。職員の声かけで、義歯も自分で外して洗浄している利用者もいる。日常的に職員が口腔状態を確認しケアに取り組むなど、口腔内の清潔を保てるようにしているが、必要時には訪問歯科をお願いするなど万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事の様子や口腔ケア時に確認している	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科訪問などの際に歯科医や歯科衛生士にレクチャーを受け実践している	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日支援している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来ることはご本人にさせていただき出来ないところをフォローしている	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	必要あれば協力医療機関の歯科に往診依頼をおこなっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	立ち上がりが可能な利用者にはトイレで排泄ができるよう手助けしている	/	/	/	布パンツの利用者も多いが、職員の声かけや誘導等の努力により、利用者全員がトイレで排泄している。夜間帯のみパッドを大きめのものにする等調整したり、入居前からの習慣で、排泄チェック表を自分でつけている利用者などもあるが、利用者の意向に沿いそれぞれの状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し予防、解消に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日排泄チェック表を記録し一人ひとりのパターンを把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	立ち上がれる利用者にはトイレでの排泄を支援しているが夜間や寝たきりの方には、紙パンツ、パット、オムツを使い分けている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	毎日のミーティングにて水分補給、運動、食べ物など適切に検討している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表により早めの声かけや誘導を行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族に相談の上、製品の選択、提案をしている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	時間帯に応じてパットを使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分量、食事量、運動で自然排便が出来るよう促しているが、それでも自然排便が望めない場合は主治医に相談の上内服薬を使用する	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	温度などは確認できるが、申し出がないため曜日や時間は希望がない	◎	/	◎	週に2~3回ずつ入浴することができる。昼食後の入浴を希望する利用者が多く、順番を決め意向に沿った支援をしている。浴室にはリフトも設置されているが、利用者全員が職員の一部介助で入浴できている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	天気や若い頃の話などリラックスして楽しみながら寛いでもらえるようにしている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗えるところは自分で洗っていただき手の届かないところ不十分なところを支援している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その日の入浴を拒む場合には無理強いせず気分の穏やかなときに入浴していただけるようにしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には必ずバイタル測定を行う。入浴後には水分補給を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録にてスタッフは確認している	/	/	/	もともと睡眠時間が短い利用者や、就寝時間が遅い利用者もいるが、睡眠導入剤などに頼らずそれぞれのリズムで生活できるよう支援している。場合によっては医師に相談をすることもあがるが、昼間に活動するなどの工夫により、利用者は安定した睡眠を保っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間頻繁に起きられる方には日中の昼寝時間を短くしたりなどの工夫をしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜眠れない入居者には就寝時間を遅くするなど工夫している。睡眠導入剤等の使用については必ず主治医と相談している	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は個室になっており取り組んでいる	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の携帯を持っている方は、自室で自由にかけられている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人からの希望がなければスタッフからの声かけなどはしていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば家族に連絡を取っている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	手紙やはがきは、行政からのものが多く、個人からほとんど届かない。届いた場合は家族へ一度渡すようにしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話を使える利用者には、家族の協力のもと連絡を取り合っている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現在は現金所持されている方はいないが金銭管理をすることの大切さは理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	定期的な買い物などには行っているが、小口現金の中から個別に使っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先への協力の働きかけは、行っていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	家族の希望も多くほとんどお金を所持していることはなく支援をおこなっていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	本人も家族も希望がなく特に話し合っていない	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理方法を説明月に1度出納の確認もしていただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	外出・通院など家族の協力が困難な場合は支援している。	◎	/	○	入院中にリハビリの一環として覚えた手芸を、引き続きしたいと希望されたものの、アイロンを使う作業があったため、それ以外の作業を普段行い、家族が面会に来た際にアイロンを使うように工夫して支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	近隣の住宅街に馴染んだ建物や玄関口になっており季節の花なども植え工夫している	◎	◎	◎	事業所は、とてもきれいに掃除・整頓されており、周辺の住宅の景色に溶け込み一般の住宅のようである。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用の場所は家庭的な空間になっており、季節にあった飾り付けを行っている	◎	○	◎	全体的にきちんと整頓され、清潔で清々しい空間である。地域の避難場所の手作りマップや、イベントとして定期的開催される演奏会の写真、職場体験で訪れた小学生との写真などを掲示している。玄関には行事予定を掲示しており、習字が得意な利用者が「お知らせ」の文字をマジックで書く役割を担っている。玄関には花を飾るなど季節感があり、いい雰囲気である。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者の方が心地よく過ごしていただける環境を整えている					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キッチンがリビングにあり調理中の音や香りを感じられるようになっている						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	入居者の相性のよし悪しによって席替えを行い落ち着いて過ごしていただいている						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室の使用中はドアを開けている						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	好みで椅子やテレビなどを置いたり家族の写真などを飾られたりされている	○		◎	自宅から家具を持って来たり、家族の写真を貼ったりするなどしている。アルバムを持参されている方もいる。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレには張り紙、居室の入り口には居室番号を貼り、分かりやすく間違えにくくしている。また、洗濯物を畳むなどの手伝いをしてもらっている				◎		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	声かけにて対応し不安や混乱がないよう注意している。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングに新聞や雑誌を置いている引き出しつきのケースも置いてあり自分のものを引き出しから出し入れされる。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけなければならない場合にはスタッフ同士で話し合って実行している。	◎	◎	○	職員全員、鍵をかけることの弊害を理解し基本的に日中は施錠していない。利用者の様子に応じ、ユニットの入り口や玄関に施錠することもあるが、ドア開閉時には音が鳴るよう工夫している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵をかけ始めた際に家族に説明し理解を得ている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	外に出たいなどの意向があれば状況に応じて出られるように段取りをしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個人ファイルがあり全ての情報が記入されている。またその都度更新することで最新情報も記載している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日バイタルを測定し記録し異常があれば申し送りで報告、身体面、精神面においても記録している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	24時間対応でいつでも相談できる異常や急変時などは報告を行い指示にて対応している	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	見学时、面談時等に家族に希望の医療機関などの確認を行い入居後も継続して医療が受けられるようにしている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族、かかりつけ医、事業所で連絡を取り合い適切な医療を受けられるよう配慮している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族の面会時や急を要する場合には、電話で報告し、今後のことについても話し合っている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはスタッフが同行し生活習慣や心身の状態について情報提供を行っている	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	カンファレンスに参加したり訪問診療時に情報交換を行っている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	行っている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	状態の変化や異常があったときには看護職員に報告、相談している。緊急時の場合主治医の医療機関へ連絡し主治医より指示を受けている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	月2回の主治医の訪問診療と異常や急変時などは、24時間対応で報告、指示を受けれている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックのほかにも生活の中で観察し異常のある場合には、早期に対応している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	効能、用法、用量の説明書をファイルにまとめ職員全体で把握できるようにしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬は職員が管理し一人ひとりの薬箱にセットし服薬時は2人で確認している	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	排泄チェック表をもとに毎日排便の確認をしている。又、薬の処方があった場合は服薬後の様子についても話し合っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々状態の変化時は記録している必要があれば家族や主治医へ連絡を取っている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	病状の変化や家族の気持ちの変化に伴い6ヶ月に1回アンケート調査を行っている。	/	/	/	これまでに事業所で看取りの経験もあり、24時間体制で訪問診療をお願いできる医療機関が複数あり、体制は整っている。医療行為のない場合は事業所で最期まで支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	アンケートを年2回実施しており主治医にも報告している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態の変化があった際に急変時対応の話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	面会時に家族の今の思いを聞いている。その際に対応についても話している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	三者で話し合いの場を設け検討や準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に傾聴するようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修にて各テーマで取り組みを行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	予防や対応のマニュアルがあり定期的に研修を行うなどして体制を整えている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政や医療機関などから発生状況等の最新情報を入手し共有している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関からの情報やインターネットなどで情報収集し対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関先に消毒や張り紙を設置し感染予防の注意喚起を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との連携を図り共に本人を支えていく関係を築けている。	/	/	/	毎月家族へは報告の便りと行事の案内を郵送している。計画の説明や金銭的な面での相談事などがある場合には、事前に連絡して、事業所に来てもらうようお願いしている。家族の面会時には、職員から普段の様子や暮らしぶりを細かく伝えるように心がけている。今後は職員異動や事業所設備等運営上のことなどについて、家族への報告を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に居心地よく過ごしていただけるように居室に椅子をお持ちしたり取り組みの様子などを伝えたりしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	月1回の手紙にて行事予定の報告をしている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回の手紙にて生活の様子などを伝えるようにしている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	来訪された際になるべく家族から意見を聞くようにし取り入れられるように取り組んでいる	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来訪時になるべく説明をするようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	年間に6回運営推進会議があり、その際に報告の機会があるが家族の参加は少ない	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	行事等の案内はしているが家族の参加は少ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時及び面会時に説明をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	面会時に聞くようにしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	事前に契約の時間を設けていただき説明し締結している。内容の変更についても変更する前に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の意向に沿って退去支援を行っている。転居先を探して欲しいなどの依頼があった際には、希望のサービス形態を確認のうえ連絡調整を行い入居できる可能性の高い施設を複数提案した。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に必ず説明し、初回請求の暫定金額も細かく明示している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で認知症の勉強会などを開いて理解していただいている。	/	◎	/	地域の民生委員がとても協力的で、近隣の方との交流も多い。地域の避難訓練や運動会、町内清掃等へも参加して交流を深めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内清掃、運動会、秋祭りなど地域の方と交流を深めている	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	災害時等何かあった場合は支援して下さる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	以前はあったが最近あまりない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩などで会いしたときには挨拶し合っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事のときのボランティア(歌、踊り、運動)に来てくれる	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの神社、寺に初詣、公園などにお花見など行っている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	運営推進会議に参加していただいたり町内清掃にでて関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族には事前に連絡しているが、ほとんど参加されない。地域の方や行政機関の方は毎回参加いただいている	○	/	△	リビングのスペースで運営推進会議を開催している。家族の参加もあるが、なかなか継続的な参加にはつながっていないため、今後の取組みに期待したい。地域の民生委員は毎回参加しており、その他の地域の方も積極的に参加している。職員は皆交代で参加し、進行役等も順番に担当している。外部評価等について、参加者に報告し理解を得ている。参加者からは様々な意見を出してもらっており、状況に応じて話し合うようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	年に1度程度報告している	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告後意見や提案など参加者に伺い今後の取り組みとしている	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合った講師を招いている。日程は、様々な機関が参加しやすいように平日を選択している	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	毎回、前回の議事録を参加者にお渡ししている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	近隣付き合いは推進会議や地域行事を通して意識して取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	事業所内に掲示しているが取り上げて伝えることは行っていない	△	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	資格や経験年数、日々の業務姿勢などから内部研修予定を作成、また外部研修の参加を具体的な項目を挙げて参加を促している。				事業所や法人内での研修、外部の研修など、積極的に受講するよう勧めている。代表は管理者や職員のストレス軽減になるよう、有給休暇等には理解があり、急な勤務変更等にも応じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入社3ヶ月で夜勤が一人でできるように育成している。資格取得への助言を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	実績などを鑑みて研修に参加を促しキャリアアップを促し、資格取得による昇給などモチベーションを上げられるように努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修に参加することでの横のつながりや他事業所でのことを聞くことで刺激を受けてもらうことを考えている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	急な勤務変更なども気軽に対応することで、自分の時間も大切にしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に1度は内部研修を行い理解を深めている。				職員全員、定期的に虐待防止の研修を受講している。今回の自己評価をきっかけに、自分自身の言動について振り返る機会になった職員もいた様子である。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	常に話し合うことができている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	声かけながら一人のスタッフに対応が偏らないようにフォローするようしており、入浴時に入居者の全身チェックを行い注意している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	普段と違う様子が見えるようであれば勤務を変更するなどの提案を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修を行い理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修を行い理解を深めている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	原則行わないことを見学時にも伝え家族より申出があった場合にも再度説明を行っている。				

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	内部研修や更に詳しい内容は、外部研修に参加できるように情報開示している	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	見学時などに家族構成などを伺った流れで松山市社会福祉協議会が作成しているパンフレットを渡して相談場所などを伝えている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	常に連絡を取り合い地域包括や専門機関の方に運営推進会議にも参加していただき意見交換を行っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	看護師から指示を受けて急変時の対応を行っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練を受けているが全ての職員ではない	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットも記録し職員同士で話し合い再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の生活の中で観察、防止に取り組んでいる	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が発生した場合にはマニュアルに沿って対応するようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	スタッフ間で連携など協力しながら、サービスの向上に努める	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や普段の生活から話を聞くようにしている	/	/	△	意見箱を設置しているが、意見や要望等の把握にまでは至っていないので、今後は利用者や家族からの意見が出やすいようにするなどの工夫が望まれる。職員からは日常的に意見が出されており、会議でも活発にアイデアが出されている。月1回ユニット会議を開催し、利用者個々の支援に限らず事業所の運営についても積極的な意見が職員から出されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を置き家族や面会者の要望等を聞けるようにしている	○	/	△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	説明するようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ユニットにてコミュニケーションが図れるように業務補佐や食事を一緒にしたりしている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月に1度ユニットでの会議を開き個々の支援についてだけでなく運営についても意見を出している	/	/	◎	

愛媛県グループホームすみれの園

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に2回自己評価を行っている	/	/	/	自己評価はそれぞれのユニットで作成し、実施状況の評価欄についてもユニット毎の判断を行った。運営推進会議を通じ、参加者にも評価結果は報告しているがそれに止まっているため、具体的な取り組みを行い運営に活かすなどして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題の抽出を行い毎日のショートミーティングなどで話し合っている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	運営推進会議などでご指摘いただいたことを改善できるようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を通じて外部への報告を行っている	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	記録をとることでの成果を確認している	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震に対する訓練を主に行っている	/	/	/	年に2回避難訓練を行い、そのうち1回は消防立ち合いで実施している。防災士でもある民生委員のアイデアで、運営推進会議の中で地域の防災マップを作成した。また、緊急時には近隣の住民が応援に駆けつけてくれる計画もあり、訓練にも参加している。水害に備え、1階のユニットの利用者を2階フロアへ移動してもらう訓練なども実施している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	月1回テーマを変えながら各ユニットで消防訓練を行っている。施設全体で行う場合もテーマを変えている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	避難経路は地図を作成しており廊下で確認できる。備蓄飲料は常に賞味期限を確認している	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に1度は消防署の立会い訓練を実施し指導してもらっている。地域の防災士にも参加している	△	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	施設全体で災害訓練を行う場合には防災士の方に参加いただき助言いただいている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	特に要望もないため、行っていない	/	/	/	地域の方から相談が入ることもあるが、件数が少ないため、事業所のことを宣伝するなど、さらに広報に努めて欲しい。また、地域の小学校から職場体験学習の依頼があり、今年から受け入れを始めているが少し物足りなさを感じるので、一層の取組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議や立ち寄ってくださった際に相談対応している	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	まもる君の家シールを玄関に貼り地域教職を行っている。夏祭り開催時には近隣の方にお伝えする	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	職場体験などに活用して下さっている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議にて報告連絡を行っている。情報のやり取りをしている	/	/	△	